イデックスオイルレポート　~For a month~

株式会社　新出光

日付	補助金		変動幅		変動幅
10/1～10/7	50.7	出光興産	−0.5	ENEOS	−0.5
10/8～10/14	42.4		−8.5		−8.5
10/15～10/21	43.0		+0.5		+0.5
10/22～10/28	42.8		−0.5		−0.5
10/29～10/31	52.4		+9.5		+9.5

【単位：円/KL】

		0.5HPP	ENEOS　LS舶用燃料油基準価格
メニュー価格推移	2026年7-9月C重油決定価格	118,700	123,680 【118,700(メニュー)+　4,980(プレミアム)】
	2026年10-12月C重油仮価格	145,780	150,760 【145,780(メニュー)+　4,980(プレミアム)】
	2026年10-12月C重油決定価格		【(メニュー)+　(プレミアム)】
	決定価格 前期比		

【単位：円/KL】

		適合C重油	A重油
内航燃料油価格推移	2026年7-9月決定価格	129,080	144,100
	2026年10-12月仮価格	156,160	
	2026年10-12月決定価格		
	決定価格 前期比		

＜1ヶ月価格見通し＞　（単位：US/bbl）

	Brent	WTI
High	125	115
Average	113	103
Low	105	95

＜3ヶ月価格見通し＞

	Brent	WTI
High	120	113
Average	98	91
Low	90	83

	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円／kl	通関CIF ドル／bbl	為替レート 円／ドル	原油CIF価格 前月比
CIF価格推移	26/9	9桁速報	99,432	100.37	157.49	−3,255
	26/10	最終予測	126,047	127.05	157.73	26,615
	26/11	展望	127,908	130.35	156.00	1,861
	26/12	展望	133,995	138.33	154.00	6,087

【 11月 価格変動要因 】

1.地政学リスクプレミアムによる高値維持
中東情勢（ホルムズ海峡の緊張やインフラ攻撃リスク）とイスラエル政局の不透明感による地政学リスクプレミアムが、引き続き原油価格の最大の下支え要因です。供給不安が劇的に悪化しない限り価格上昇の勢いは鈍化するものの、当面はプレミアムが剥落しにくく高値圏での推移が続きます。

2.景気減速による需要抑制と製品市場の下支え
高インフレを警戒した米国の金融引き締めや、中国・欧州の景気回復の遅れによる世界的な景気減速懸念に加え、原油高自体が需要抑制要因として重しになっています。一方で、冬季需要や低在庫による中間留分（軽油など）の需給逼迫が製品市場を下支えしており、価格急落を防ぐ要因となっています。

3.今後の価格推移と投機筋のリスク
投機筋の買い越し（ロング）が高水準にあり、利益確定売りが下落を増幅させるリスクを孕んでいます。短期的には110～120ドルのレンジで推移しますが、時間の経過とともに市場の関心が実需や景気動向へ移ることで、3ヶ月後には供給回復と需要減速が反映され、100ドル程度まで下落する予想です。